

それぞれの愛のカタチー夏海ー

クアトロ

■作品概要

サーカル

癒し庵もち猫（シナリオ／効果音／音声編集…クアトロ）

ヘンツヤンル／年齢指定

ハヘニル音戸作品ノ全歴

〇〇三  
同文字教二

卷之三

卷之三

登場人物

卷之三

兄妹に兄がいるせか聽き手の事を年上だとは意識しておらずよく毒を吐く

名前が情熱的なのに、対して性格が大人しい」とを気にしている

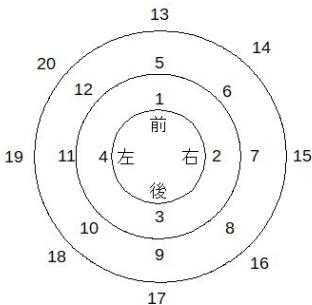
風景上りなど平穏で下着姿でいる様な性格

職業／特技…ラジーシング／カフェ《リ》／太食ハ

^聽き手^

彼氏  
.. 大学生(22歳) / 夏海にべつたり / 匂いフエチ / 内定済み

^台詞位置の指定図▼



**図1**マイクとの距離を示すところ  
1~4は30cm  
5~12は50cm  
13~20は13を想定しておむ  
距離が取れない場合、  
JRからの音量調整等で対応をおむ

# 1：夏海の帰宅（聴き手の部屋／屋）

（ドアを開閉する音）

（夏海の足音）

（位置15／有聲音）

ただいま。

（冷蔵庫を開けてペットボトルを開ける音）

（水を飲む演技） んつ…、んつ…、んつ…。

ふつ…。

今日～？

（夏海の足音）

（位置15から5へ移動しながら／有聲音）

今日はいつもコース。

（位置5／有聲音）

あたしの速度で走って、ちよつと一時間くらい。

ねえ先輩、そりゃもううれしい…、邪魔。

は？

匂い…？

嗅がせろ…？

先輩、それ、本気？

あたしがランニングから帰る度に「わづわづわ」と、正直キモい。

え？

何？

うん…、うん…。

確かに…、恋人の匂いつてこののは好き…。

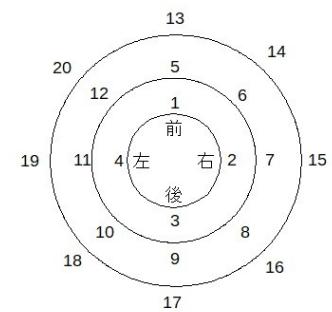
でもそれどこれとは別。

汗臭いのを嗅ぎたいって言つのは…、流石に…く…。  
だからどうして。

（夏海の足音）

（位置2／有聲音）

わよつと…、塞がないで。



もつ…。

(夏海の足音)

(位置4／有聲音)

どこでくれないと、シャワーが浴びれない。  
いい加減にしないと、あたしだって怒る。

(聴き手の足音)

(位置1／有聲音)

ふう…、やつと汗を流せる。

(夏海が服を脱ぐ音)

あ…、脱いだランニングウェア、洗濯機に入れておくけど、その匂いも嗅いだら駄目。  
とほけても無駄。

変態の先輩が考えてる事はお見通し。

分かった?

分かつたら返事して。

うん、約束。

(夏海の足音)

(風呂のドアを開ける音)

(位置5／有聲音)

約束…、破つたら許さない。  
いい?

うん。

(風呂のドアを閉める音)

(つぎいへンシャワーの音)

(聴き手の足音)

(雑誌をめくる音)

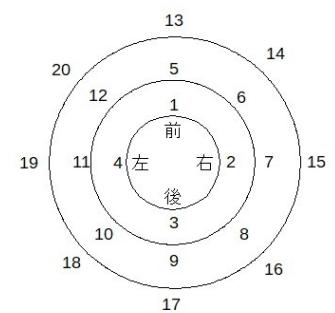
(シャワーを止めぬ音)

(夏海が風呂から出でる音)

(夏海の足音)

(位置5／有聲音)

わいせつ。



(夏海の足音)

(位置)／有聲音／小声)

え？ 着替え？

いいの。

少し」の格好で涼みたい。

バスタオル一枚。

ほら、めくつたら見えね。

チラつ。

ねえ、何でそんな白けた目なの。

彼女の際どい所が見えそんなんだよ。

ほう。

まあ見慣れてるから興奮しないか。

といふで、何読んでるの？

ああこれ、あたしがこの前買った、カフェ特集の雑誌。

これ、買ってよかつた。

知らないお店、いっぱい載つてた。

ほら、このお店も。

「」、家（うち）から結構近い。

そう。

あの大通り。

何かね、すゞく美人の店員さんがいるんだって。

スタイルがよくて、コーヒーも上手に淹れてくれるらしい。

その店員さん担当で通つてる、つてお客様さんもいるくらい人気。

あ、今、その店員さんを見てみたい…、つて思つたでしょ。

その顔は嘘の顔。

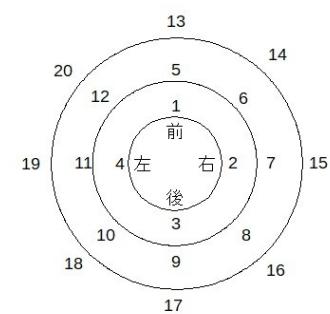
もう一緒に暮らして一年経つんだから、顔を見れば分かる。

ほんと先輩って、直ぐ顔に出るよね。

ふむ…、まあいいや。

でね、そこのお店、マスターさんもすゞく有名うし。

世界中から厳選したコーヒー豆を扱つてて、テレビでも紹介されたみたい。



ね、今度さ、行ってみよう?

だから、美人店員さんじゃなくて、「コーヒーがメインなの。  
もしその店員さんに惚れちゃつたら、先輩の事、嫌いになるかも。

そう?

そつか。

あたしが好き…、か…。

嬉しいな。

あたしめたいなのと付き合つてくれるなんて、最初は冗談かと思った。  
そう。

告白された時、罰ゲームか何かやらされてるのかなって考えたもん。  
でも、話を聞いてる内に、本気だつて分かった。

一生懸命、あたしのいい所を言ってくれて、どこが好きか必死に語つてくれた。  
だからね、そんなにもあたしの事を好きつて言つてくれる先輩が、あたしも好き。  
ううん、大好き。

何?

うん、もっとそいつかに行くね?

あ、そうだ。

もう匂い嗅いでもいいよ?

汗は流したし、ボディーソープの匂いがするはず。

それじゃ意味がない?

何で?

汗の匂いが好き?

先輩、やっぱキモい。

え?

うん……、匂い…フエチ…?

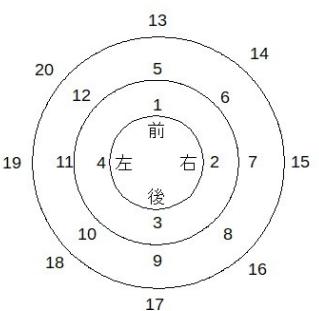
それつて要するに、汗の匂いで興奮するつて意味でしょ?

やっぱ変態じやん。

さっきも言つたけど、確かに好きな人の匂いは興奮する。

けど、汗の匂いつてのはちょっと抵抗ある。

うん、引く。



そんな残念~~こう~~な顔しても駄目。

あたしは嫌な事は嫌つて~~言つ~~。

でもその逆はまた別。

先輩はあたしの~~言つ~~事はちゃんと聞いて。

ずるくない。

聞いてくれなきゃやだ。

聞いてくれるよね?

よし、~~言質~~とつた。

じゃあ先輩、匂い嗅がせて。  
は? じゃなくて。

匂い、嗅いでもいいよね。

言つ事、聞いてくれるんでしょ。

ほら、~~こいつ~~来て。

あたしの胸に来て。

(夏海に抱き着く音)

(位置1／有声音／小声)  
ぎゅー…。

先輩、今なら匂い、嗅ぎ放題。  
いいじやん。

ボディーソープもいい香りするでしょ。

それに、バスタオルも洗いたての匂いだし。

あ、こら、先輩。

そんなに顔を押し付けないで。

バスタオルが落ちる。

(位置5／有声音／小声)

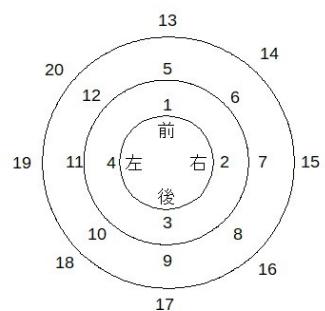
もう…、危なかつた。

確かに来てつて~~言つ~~たのはあたしだけど。

そんなにされると思つてなかつたし。

何だかんだ~~言つ~~て、この匂いでも興奮するんじやん。

ふふつ♪



先輩、面白うね♪

(位置6／有声音／小声)

んー、この場合、可愛らしいのが正しいのかな。  
よく分かんないけど、要するに、先輩が好きって事。  
わ。

「いつの何気ない会話とかも、好き。

え?

それにしては棘がある?

もう?

(位置5／有声音／小声)

別に棘なんてないでしょ。

あたしは普通に話してるだけ。

無自覚?

あたしが?

先輩、冗談の下手だね。  
どうしたの?

まだ何か言いたそうな顔してる。

(位置12／有声音／小声)

いいよ、畠つて。

恋人には、隠し事なし。

うん…、うん…。

心が読めない?

あたしの?

もう?

目一杯、愛情表現してみたりだけ。

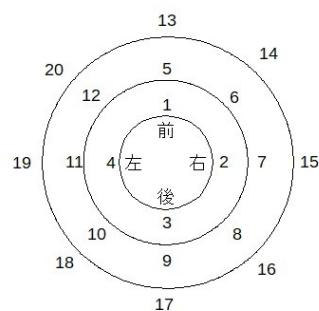
(位置12から4へ移動しながら／有声音／小声)

ほり…。

(位置4／有声音／小声)

(耳ふーー回) ふー…。

先輩は「れど、耳がきが好き。



付き合つて一年も経つのに、分からない?

そなんだ…。

あたしは先輩の事、色々分かる。

そう、顔に出やすい人だから。

### (位置5／有聲音／小声)

あたしは分かりづらし…?

あー…、余り表情に出ないからかな?

(無感情で) ジャあヤ、「えーい、先輩大好き、えへへ。」とかやつた方がいい?

でしょ?

これはこれで、あたしうしくない。

だから「」のままでいいの。

さて、そろそろ着替えようかな。

流石に「」のままじゃ風邪引いちやう。

もう見納めだけど、もっと見ておかなくていいの?

ほう。

チラツ♪

ほうほう。

チラツ♪

もう、相変わらずの「反応。

ホントにあたしの事、好きなの?

だって好きな子がバスタオル一枚で、目の前にいるんだよ?

それにさつきはあんなに興奮してたくせに。

裸よりも着てる方がいい?

嘘つかないで。

男性って女性の裸が好きなんですよ?

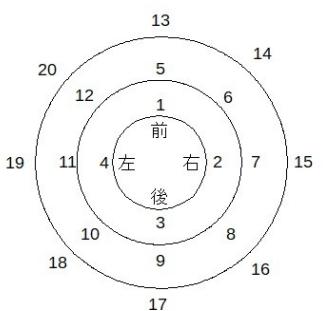
性癖…?

着てるのが?

ふーん、そなんだ。

やっぱ先輩つてどーか変だよね。

まあそういう所も含めて、あたしは好きなんだけど。



えつと、じやあ着替えてへる。

うん。

ちよつと待つて。

## 2...夏海の部屋着（聴き手の部屋／昼過ぎ）

(正)の証明の問題

(夏の足音)

ねえ先輩。

これ、見て。

(位置 13 / 1)

新しい部屋着、買つた。

ウサギの山中

それに、れ。

サヨヒノモウシ

四三九

۱۰

(立置)

どうかな?

似合つてゐる……、かな?

(位置13から位置1へ移動しながら／有聲音)

そのか 古變した  
よがた

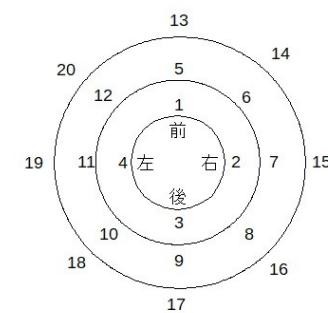
卷之三

「わね、ヒハクとホーリーの一種類あつたんだけど、あたしが買おうとした時にホワイトしかなくて。

それで仕方なくホワイトにしたんだけど。

先輩が可愛いって言ってくれたからいいや。

パンクも見にきたー……?



変じやない…かな?

ねつ?

じゃあ今度はピンクで、他の可愛い部屋着、買つてみる。  
それはねつと、何をやつやから「ヤーヤ」しているの?

可愛すやつ…、ヤバ…~?

あ、もしかして、これも性癖だつた?

ふーん、じゃあ一杯見ていいよ。

(位置1／有声音／小声)

触つてみて。

ちよつと、何で頭撫でてるの。

そつちぢやなくて、耳。

あたしの耳ぢやなくて、部屋着の方の耳。

先輩…、わざとやつてるでしょ。

そう、そつち。

ね?

モコモコでしょ?

それこ、ここの二ハイソックスもセシトなの。  
同じ生地だから、こつちもモコモコ。

ねえ、あたしの話、聞いてる?

あー、先輩のエツチ。

あたしの太ももに田線いつてる。

今はこの部屋着を見て欲しいの。

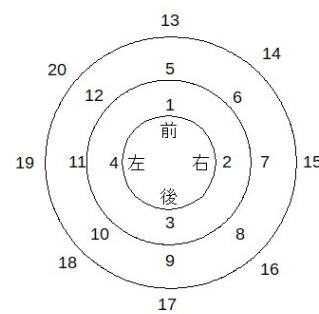
ねえつてば。

もう…、仕方ないなー。

どうしたいの?

まだお昼だけど…、したいなら…、いこよ…?  
うん。

今日は特別。



(膝に寝転ぶ音)

(位置4／有聲音／かなり小声／ペースを乱さない様にゆづく)

あのせ、先輩…。

何してんの？

膝枕つて…、見れば分かるけど…。

そうじやなくて。

エッチしたいんじゃなかつたの？

それは後…？

じゃあ何するの？

耳かき…。

何それ。

うん…、うん…。

モコモコ部屋着の耳かきが夢だなんて、先輩…、夢がちつさいね…。

まあいいけど。

でもせ、拍子抜けしちゃつたな。

あたしだつて先輩に、もっと求められたいって思つてるんだもん。

それなのに…。

あたしつつてやつぱ魅力ないのかな…。

そんな事ない？

それホント？

ふむ…、まあそういう事にしておく。

んじやあ、耳かきしよつか。

あ、綿棒でもいいかな？

もう先輩が膝に乗つちゃつてるからせ、耳かき棒を取りに行くの面倒。

綿棒なら「」にあ。

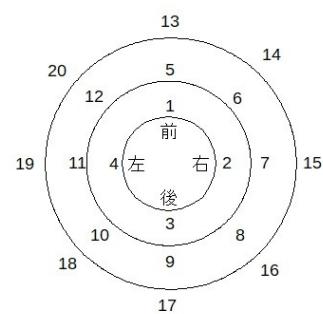
うん、分かった。

じゃあ綿棒で、お耳掃除する。

(綿棒を取り出す音)

やつていくから、動かないで。

ねえ先輩。



あたしつて、ナシ//つて名前でしょ？

夏の海つて書いてナシ//なんだけど、この名前、あたしに合つてないつてこつも思つ。

字面（じづら）からして、いかにもはつらつとして、

太陽みたいにキラキラしてそういうやない？

でも実際のあたしは」んなで、丸っきり相反（あいはん）する名前だな一つで。そつ？

先輩はそう言つたけど、あたしつて普段からテンション」んなだし、

暑いのは苦手だし、夏と相性が悪いんだよね。

勿論、親には産んでくれて感謝している。

けど、期待して夏海つて名前を付けてくれたんだどうなつて考えると、

何だか申し訳ない気持ちになつちやつて…。

うん。

物心ついた時から、この名前が「コンプレックスだった。

それにほら、あたしつて兄貴が二人いるでしょ？

そのせいか女の子っぽい仕草とか、可愛いメイクとか全然分かんないし。

人の目を気にせず、「飯はたくさん食べちゃう」。

地味で目立たないしで、何か惨めだなーつて思つてたんだ。

でね、そんなだから、この部屋着は、結構勇気を出して買ったんだ。

あたしなんかに可愛い服とか、合わないだらうなとは思つてた。

もし先輩に笑われちゃつたらどうしようつて、買う前も買ってからも不安だつた。

でも可愛いつて言つてくれて、凄く嬉しかつた。

そう。

表情には出てなかつたかもだけど、嬉しかつた。

それによ？

こんなあたしを彼女にしてくれて、しかも凄く大切にしてくれるから、先輩の事、大好き。

まあ、たまーに変な人つて思つ事はあるけど。

そう、たまーに。

そういう事にしどいてあげる。

心外？

それ本氣で言つてゐる？

誰がどう見ても、先輩は変な人だよ。

そう…。

変な人なのに…、こんなにも好きなの…、何か不思議…。

先輩って、あたしの兄貴とは全然違うタイプなんだ。

うん。

あたしの兄貴は一人とも不愛想で、人を寄せ付けないオーラが出てる。でも先輩はその真逆。

いつも「ココココ」して、愛嬌があるから、人を寄せ付けるオーラが出してる。オーラが見える訳じゃないけど、そういうの、あたし分かるから。でね、そんなだから、少し心配もしてる。

先輩を誰かに取られちゃうんじゃないかなって思っちゃう。

あたしみたいに魅力のない子、先輩と不釣り合いなんじゃないかなって思っちゃう。え?

そうでもない?

じゃあさ、どういう所に魅力を感じる?

スタイルいいのに大食いな所…?

それって魅力…なのかな…?

そうなんだ…。

他には…。

いい匂いがする…?

先輩…、やっぱキモいね。

しかもさ、膝枕してあげてから、何回か太ももの匂い嗅いでるでしょ。分かるつてば。

先輩の鼻で息を吸う感触が、何度もしてるもん。

もしかして、気付いてないとでも思った?

まあもう慣れてるからいいんだけど。

それにしてもさ、そんなにあたしの匂いつて、いい匂いなの? へえ…。

さつきも言つたけど、恋人の匂いが好きっていうのは分かる。

でも、そんなに鼻息荒くして、嗅がせろつて迫られるし、やっぱ止め。

ねえ、聞いてる？

つて、また匂い嗅いでるし。

全然聞いてないじゃん。

先輩は匂いフェチの変態野郎だね。

あのヤ、もしかして、変態とか、キモいって言われて、喜んでない？

うーわ、図星なんだ。

うん、めちゃくちゃ引いた。

でも、あたしは先輩のそういう所も含めて好きなんだ。  
そう。

こんなあたしを受け入れてくれるんだから、あたしも受け入れないと。

あ、でも、無理してる訳じゃないよ？

ホントに嫌な事は、ハッキリ嫌つて言つから。

そう。

さっきもそうだったでしょ？

汗臭いのを嗅がれるのは、流石に嫌。

本気で嫌だったから、ちょっと強引に叫びやつたね。

気にしてる？

そつか、よかつた。

あたしもちょっと眞づ過ぎたかなって、気になつてた。

もし先輩を傷付つけちゃつたらどうしようつって、少し不安だったんだ。  
でも、気にしてないならよかつた。

よし。

綺麗になつたから、お耳にふーつとするね。

綿棒だから梵天がないけど、まあ仕方ないよね。

(耳ふー一回) ふー…、ふー…。

(耳ふー短ぐー一回) ふつ…、ふつ…。

(耳ふー長ぐー一回) ふー…。

うん、綺麗になつた。

今度は反対。

ゴロんして。

(寝返りの音)

(位置2／有声音／かなり小声／ペースを乱さない様にゆつぐ)

「いつも綺麗にして〜〜。

いつも～ばや、先輩。

内定もひいてよかったです。

去年から就活してきて、希望する会社に採用されたって凄い。

あたしも来年から始めなきゃいけないんだけど、不安。

一番の難関は面接。

今からでも一ひとつ笑う練習しつかなかきや。

そう。

あたし、表情筋が絶望的に衰えてると思つから、鍛えるの。

それで、少しでも好印象を持つともいえるようにしておかなこと。

うーん、確かに大事なのは中身だけど、数分の面接で中身まで分からぬじやない?

そうだよ。

結局や、面接なんものは第一印象が一番大事。

面接官だつて、何人の自己紹介を聞いて、そのうち飽きちゃうだらうから、尚更。

とは言つても、正直いい印象を残せる気がしないから、

先輩、後でちよつと練習に付き合つてよ。

うん、笑顔の練習。

そつは言つても、あたしには必要な。

まあ先輩みたいに、いつも一〇一〇爽やか青年は、気にした事がないかもだけどね。

どうしても意識して笑顔を作ると、引きつった顔になっちゃうんだ。

だからね、少しでも自然な笑顔になれるようになって、実は既に隠れて練習してるので。

そう。

だから後で見て。

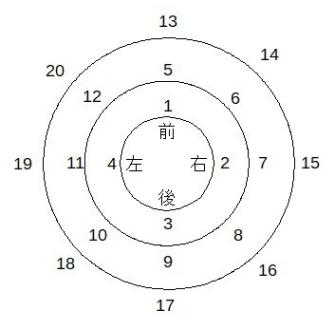
あ、あたしの顔を見て笑つたふ証はないから。

もし笑つたら…?

そうだなー。

先輩の事を嫌いになるかも。

え…、あ…、嘘、嘘だつて…。



そんな顔しないで。

えっと、じゃあ…、ちょっと嫌いになるかも?

分かんないや。

元々あたし、笑顔に自信ないから、もし笑われても何とも思わないかも。ねえ先輩。

笑顔が下手な子は嫌い?

もし嫌いだったら、もっと頑張って可愛い笑顔を見せられるよ!」

そう?

そつか…。

自然なあたしが好き…、か…。

あたし、やっぱ先輩の事、大好き。

こんなにも大事してくれて、こんなあたしを好きって言ってくれて、幸せ…。じゃあさ、あたしも先輩の好きな所、言うね。

いつも優しい所。

いつも爽やかな所。

いつもいい匂いな所。

実は先輩の匂い、好きなんだ。

それと、あたしを大切に思ってくれてる所。

後は…、時々…、変な所…? :

うーん…、変って、嫌つて意味じゃなくて、面白いって意味。

そう、褒めてる。

他には…、あ、年上って感じがしない所も親しみやすい。

うん、褒めてるよ? :

何でヤ。

バカにされてる気がする? :

あー、「めん。

言い方が悪かつたかな?

あたしがもっと上手く表現出来たらよかったですけど、ちゃんと褒めてるつもり。

そう。

先輩にはいい所がたくさんある。

だから大好き。

うん、キモい所も含めて。

だから、何で唇尖がくらせてるの？

いい意味つて言つたでしょ。

キモいつて言葉が悪いのかな?

卷

あ、知らない？

大きな目に、大

今、一部の女の子に人気なの。

そ だ 三  
知ら な い だ 三

今の日本の映画

ほら、あの話題のやつ。

あれに出てくる敵役……って感じ?

六一  
これも選二の

三三二

例えるのが下手で」めん。

二

卷之三

あたしね…、先輩と出会う前は、毎日が憂鬱だった。

周りの子はキャラクターして、同じ年齢で、同じ学生なのに、どうしてこんなにも、あたしと違うんだか、ついつも思つてた。

ね……ああ、あたしはこれまでも、これからも、

あの日、学食で「ふざけてた男の子がお盆をひっくり返しちゃって、

あたしに水がかかつちやつたの、覚えてる?  
そう。

あの時、真っ先に駆けつけてくれたのが先輩だった。

それで、あたしのために怒ってくれたでしょ?

何だかよく分からぬいけど、兄貴とは違う、頼もしい感じがした。  
で、その時ね、人生が変わる音が聞こえたの。

運命の鐘ってやつかな?

上手く言い表せないけど、そんな感じ。

その後に先輩、風邪引いて上着を貸してくれて、その時にフワッと香った匂い…。  
あれでもう駄目だった…。

そう、それは恋。

でも先輩ったら、名乗りもせずに、じゃあって残して行っちゃって。  
上着を返したくても返せなくて。

それで学食にまた来るかなって思つて、毎日学食で待つてた。  
あたしの予想通りだつた。

「」しながら向かって歩いてくる先輩を見つけた。  
で、いざ上着を返そうとしたら緊張しちゃつて。

ああ、どうしよう、もう田の前だつて思つてたら、先輩から声をかけてくれた。  
この前の子だよね?って。

正直、飛び上がる程嬉しかつた。

だって、あたしみたいな子、影が薄いし、人の記憶に残らないだらうから。

で、声をかけられたのはいいけど、舞い上がっちゃつて。

それで無言で上着だけ突き付けて、走つて逃げちゃつたんだよね。

あ、そろそろこいつも、お耳にふーつしていくね。

(耳ふー一回) フー…、フー…。

(耳ふー短ぐー一回) フフ…、フフ…。

(耳ふー長ぐー一回) フー…。

綺麗になつた。

うん、起き上がりつてもこいよ。

(起き上がる音)

(位置5／有声音／かなり小声／ペースを乱さない様にゆっくり)  
さつきの続きね。

あれは…、確か…、あたしが逃げちゃった次の日だったつけ。

今度は先輩が待つてくれて、あたしに声をかけてくれた。

あたし、その時ジックリしゃって、変な声が出そうだった。

あたしに声をかけてくるだなんて、普段あり得ないもん。

顔を上げたら、その時も「ココココ」というを見てる先輩が居た。

途端に「ドキドキ」しゃって、何を話していいか分からなくて。

咄嗟に出た言葉が、変な人…、だった。

今思えば、第一声が変な人って、凄く失礼。

でもその時は、何にも考えてなかつたから、思わず言つちゃつた。

そうしたら先輩、そつか、俺は変な人かつて「ココココ」とした。

そつ…、怒の訳でもなく、「ココココ」とした。

しまつたつて思つた時にはもう遅かつた。

変な人つて言つちやつたから、何とか誤解を解かなきゃつて思つた。  
けど次の言葉が出てこなくて、凄く焦つちゃつたんだよね。

それを察したのか分からぬけど、先輩の方から、

一緒にお昼食べようつて言われた時は、「冗談かと思つた。

で、一緒にお昼飯を食べて、話してる内に、更に驚いた。

先輩、前からあたしの事が気になつてたつて聞いて、嘘が下手だなつて。

でもそれは本当で、水を被つちやつたあの時も、偶然近くに居たんじやなくて、

実はあたしの近くでいつもお昼を食べてた。

今になつて考えれば、先輩らしさと「えい」と「うし」。

一步間違つたらストーカーだけど…。

まあでもその時は、気になつてたつて言われた瞬間、考えるのをやめちゃつてた。

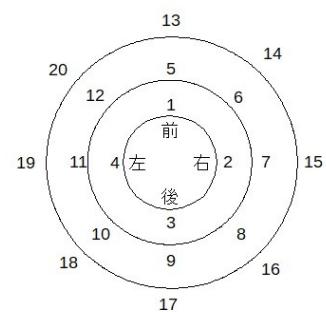
それから何回かお昼を一緒に過ごして、お夕飯も行くようになつて、

ある日の夜、告白してくれた。

ハツキリと、好きだつて…。

あたしは一目惚れだつたから、断る理由なんてなくて。

嬉しくて、幸せで、氣付いたら泣いてた。



涙ぐしゃぐしゃの顔で、あたしも好きですって、振り絞つて…。

その時、いつも「ココココ」と先輩が、ちょっと安堵したような顔になつたの、覚えてる。ねえ、あの時、何を思つてたの?

うん…、うん…。

え、初めての告白だつたつて、それホント?~  
以外。

だつて先輩モテそうだし。

今まで女の子とかに「デート誘われたりしなかつた?  
へー、全部断つてたんだ。

何で?

ふーん、自分から好きになつた人どじゃないと嫌…、か…。  
先輩つてさ、思つてたよりも初心(うぶ)なんだね。  
えー、だつてもうじやん。

そういう事に関しては、すこく慣れてそういう見える。

まああたしが言えた立場じゃないけど。

そつかー、先輩が初めて告白したのがあたしかー。

何(なん)か貴重な初めてを、色々と奪つちゃつていいのかな…。  
そつか、あたしにならこう…、か…。

先輩はズルい…。

普段は変な人で、キモいのこ、いつも時はキッチリ裏面に返してくるんだもん。

そんなの…、もっと好きになる…。

じゃあ、もつと好きになつたお返しに、もう一つ夢を叶えてあげる。  
そつ。

今日は大盤振舞。

ちょっと飲み物を取つてくから、その間に考えておこう。  
うん。

じゃあ行つてくわ。

(夏海が立ち去る足音)

### 3：夏海の耳遊び（聴き手の部屋／夕方）

（位置11／有聲音／小声）

ただいま。

（ペットボトルを開ける音）

（水を飲む演技） んつ…、んつ…、んつ…。

ふう…。

あたしにしては結構喋ったから、喉渴いてた。  
もしかしたら、人生で一番喋ったかも。

そう。

多分ギネスに載る。

まあそれは冗談。

え？

うん、生き返った。

先輩も飲む？

はい、これ。

飲みかけだけど。

もうこれ一本しか残ってないから我慢して。  
つて、躊躇う事なく飲んだ。

まあ間接キスくらいで慌てるような先輩じゃないか。

ううん、いいの。

気にしないで。

そうだ。

（位置11から5へ移動しながら／有聲音／小声）

もう一つの呉えたい夢、何？

（位置5／有聲音／小声）

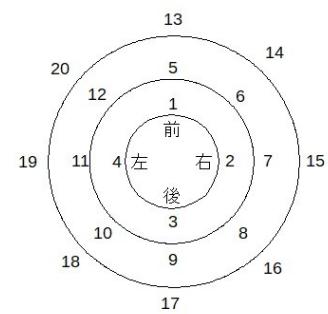
何でも聞いてあげる。

いい、言つて。

え…？

お耳のマッサージ…？

えーっと…、そんな事でいいの…？



いや、やつやはエッチを後回しにして置いたから、てっきり今度「ん…」と思つた。

そつか…、エッチじゃないんだ…。

あたしつて、やっぱ魅力ないのかな?

だつて…、興味を出して」の部屋着を買って、アパートしてね。

可愛いつて置いたけど、やっぱあたしだつてもっと求められたい。

ああでも、確かに効果はあった。

先輩、いつもよりあたしの事、エッチな田で見てる。

それなのに求めて「ないのは、あたしに魅力がないから…?」

うん…、うん…、そつか。

エッチは一方的に望んでする事じゃない…、か…。

急に真面目じゃん。

うん、意外。

まあ置つての事は分かる。

あたしも同意。

それにエッチが叶えたい夢つてこのも、少し違つ氣がしてやつた。  
で、本当にお耳のマッサージでこの…  
分かつた。

あーでも…、普通にマッサージするだけじゃつまんない。  
でしょ?

だから、色々なものを試してみたい。

別に興味本位な訳じゃない。

そう、「これは先輩との『ワーケーション』の幅を広げるための、所謂スキンシップ。

うん、そういう事。

じゃあ…、最初は「のマイク用の、ふわふわの「ワラシからね。  
身構えなくとも大丈夫。

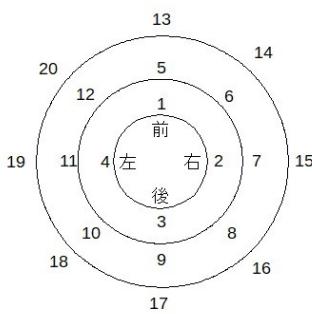
多分すぐすぐつたいだけだから。

ほら、ジッとしてて。

(「ワラシで耳を撫でる音)

(位置2／有聲音／かなり小声)

ふわー…。



ふわー…。

先輩つてさ、お耳弱いよね。

だつて「」の前、ふつ…つて耳に息がかかつただけでジクッとしたの、見逃せなかつた。そう。

だから、そのためのブツシ。  
もつとやる。

(位置2から4へ移動しながら／有声音／かなり小声)

反対のお耳もやる。

(位置4／有声音／かなり小声)

ふわー…。

あ、こっちのお耳の方が反応が大きい。

さては先輩、こっちのお耳が弱点だね。  
先輩の弱点、一つ握った。

これは大きな収穫。

え?

ああ、大丈夫。

今は何もしないから。

今は…、ね。

(位置4から2へ移動しながら／有声音／かなり小声)

もう一回反対側する。

(位置2／有声音／かなり小声)

ふわー…、ふわー…。

ふわー…、ふわー…。

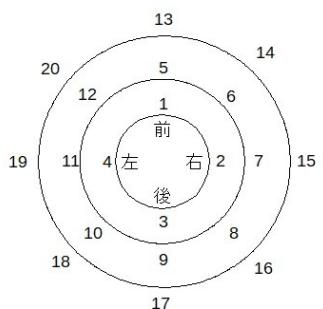
「」よ…、「」よ…。

「」よ…、「」よ…。

(位置2から4へ移動しながら／有声音／かなり小声)  
もう一回「」よも。

(位置4／有声音／かなり小声)

ふわー…、ふわー…。



ふわー…、ふわー…。

「じょ…、じょ…。

「じょ…、じょ…」と…。

うん、満足した。

え?

先輩が身悶えてるのを見て、満足したの。

いいじゃん、別に。

知らなーい。

次ね、次。

(位置4から1へ移動しながら／有声音／かなり小声)

次はー…、ーれでやつてみようか?

(位置1／有声音／かなり小声)

これはね、柔らかいシリコン製で、顔を洗う時に使つ「ワシ」。一個セットだったから、一度いい。

じゃあやつてこべ。

(シリコンハンドホールド擦り地)

ど?!

痛くない?

そつか…。

やっぱシリコン製つてだけあって、肌を傷付けない。

凄い。

じゃあ続ける。

このヤ、ポコッ…、ポコッ…、ていう、何とも言えない音が心地いい。

何となく、海に潜つてる感じがある。

あたしはそう思うんだけど。

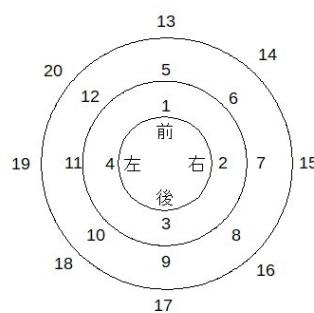
先輩さ、田を瞑つてみて。

そうしたら、あたしの言つてる意味が分かるかも。

想像してみて。

青く煌めく、どりもでも透明な海…。

足元には…、魚たちが悠々と泳いでる。



見上げると、海面がキラキラ輝いてる。

遠くの海面には、大きな客船。

どう？

少しは海つて感じしてきた？

そつか、よかつた。

ねえ先輩。

あたしさ、いつか海に潜つてみたい。

夏海つて名前なのに、海に入つた事がない。

だから、真っ青な海に潜つてみたい。

実際に肌で、田で、耳で感じたら、少しはあたしも変われるかも。

あー、無理に変わりたいっていうのじゃなくて、心を入れ替える…、みたいな？

そう。

人つて経験したり、時間が経つたりすると、変わつていぐ生き物だから。

いつかあたしも、自分の名前を誇れるようになりたい。

だからさ、いつか海に行こ？

うん、約束。

今は実際に海に行かないと経験できないけど、近い将来は海に行かなくても、  
バーチャルの世界で海に潜る…、何て事が出来る様になるかも。

先輩が内定もらった会社つて、そういう物を企画立案する会社でしょう？

今はゲームとか、テレビの映像とかでしか見れない海。

いつか気軽に体験できる様になつたら嬉しい。

うん、期待してる。

シリコンブラシ、終わり。

さて、次は…。

お待ちかね、炭酸マッサージ。

先輩、これをして欲しかったんでしょ。

いいの。

言わなくても分かつてる。

だって、目がキラキラしてる。

先輩は分かりやすい。

じゃあやつてこくから、膝に寝転がつてくれるへ。

そう。

座つたままだとやつぱり。

#### (膝に寝転がる音)

うん、それでいい。

じゃあ、あたしの炭酸化粧水で、マッサージしてこへ。

つて畠つか、ほば先輩のお耳マッサージ専用になつてゐるけど。

ああ、気にしないで。

最近お手頃価格のを見つけた。

これ、近くのドラッグストアで売つてた。

前はあんまり売つてなくて、通販で買つてたよね。

結構いいお値段してた。

まあ、先輩が気持ちいこつて言つてくれるから、細かい事は気にしない。

#### (位置2／有聲音／かなり小声)

(炭酸化粧水を手に取る音)

じゃあ、しゅわしゅわっとしてこく。

うん、いい音。

先ずは「」お耳から…。

音だけじゃなくて、パチパチつて炭酸の刺激が気持ちいい。

しゅわ…、しゅわ…。

しゅわ…、しゅわ…。

パチ…、パチ…。

パチ…、パチ…。

これ、あたしの手もパチパチして気持ちいい。

うん、好き。

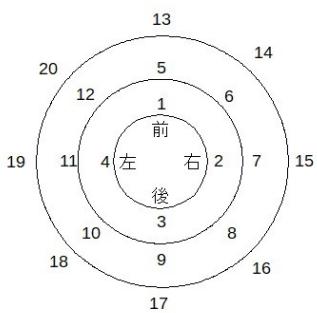
あ、そうだ。

今度、あたしにもお耳のマッサージして欲しい。

自分でやるのはやだ。

先輩にやつて欲しい。

たまにはいいじゃん。



今日は先輩の夢を占えてあげるついで言つたから、また今まで。

約束して。

あたしだって先輩ともつと触れ合いたい。

今まで言わなかつたけど…、先輩はもつとあたしを甘やかすべや。

駄田…、全然足りない。

今もうひとつ触れ合つてねけど、それじゃ足りない。

そつ。

だから約束して。

うん、楽しみ。

(位置2から4へ移動しながら／有声音／かなり小声)

もう一回、今度は反対のお耳。

(位置4／有声音／かなり小声)

(炭酸化粧水を手に取る音)

こつちも。

ねえ先輩。

約束したからにはやつてもいい。

そう、お耳のマッサージ。

いつやつてくれぬ?

決めておかないと、先輩、はぐらかしちつ。  
やつぱり、その氣だつたでしょ。

お耳マッサージくらい、してくれてもいいじやん。  
あたしべつかやつてあげて、先輩だけズルい。

約束は破つたら駄田なの。

そう、大事。

で、いつやつてくれぬ?

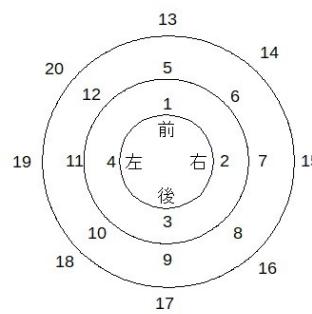
あたしが決めていいの?

じゃあ…、明日。

決めていいつて言つたの、先輩。

早くやつて欲しいから、明日。

何も問題ない。



それとも何か都合悪い?

じゃあ、明日ね。

決まり。

楽しみ。

じゃあ明日は、ランニングはお休み。  
楽しみだから、それどうりじゃない。  
だからお休み。

いいの。

こっちもお耳マッサージ終わり。

(位置4から1へ移動しながら／有聲音／かなり小声)

今度は両耳同時にやる。

(位置1／有聲音／かなり小声)

(炭酸化粧水を手に取る音)

しゅわ…、しゅわ…。

しゅわ…、しゅわ…。

パチ…、パチ…。

パチ…、パチ…。

これで、泡の音も最初の方と、最後の方で聴こえ方が違うのも面白い。  
最初の方は、しゅわしゅわって音。

最後の方は、パチパチって音。

あたしはどうとも好き。

先輩は?

そつか、先輩も一緒だ。

嬉しい。

好きな事が一緒って、嬉しいじゃん。

でしょ?

最後にもう一回やる?

いいよ。

(炭酸化粧水を手に取る音)

しゅわ…、しゅわ…。

しゅわ…、しゅわ…。

パチ…、パチ…。

パチ…、パチ…。

ねえ先輩。

先輩は匂いフェチ…、だよね。

ふーん…。

あ、違う。

嫌つて意味の相槌じゃない。

確かにたまーにキモいと思つ事はある。

そう、たまーに。

けど、先輩が好きな事を否定はしたくない。

うん、だから平気。

でもさ、あたしも嫌な時は嫌つて言つって、セッセル伝えたでしょ？

だから言つ。

飲み物を取りに行つた時、ついでに洗濯もしちゃおつと思つた。

その時、ある事に気付いた。

先輩、この意味、分かるよね？

黙つても無駄。

多分犯行に及んだのは、あたしがこの部屋着に着替えてる間。  
容疑者は先輩しかいない。

まだとぼけるつもり？

そう、ならハツキリ言つ。

あたしのランニングウェア、ギルバ。

持つて行つたの先輩しかいない。

ねえ、ギルバ。

ベッドの中…？

もう…、お布団に汗が染みちゃうじやん…。

本当に変態…。

キモい…。

でも…、大好きだから、許してあげる。